

風景の遺産

熊野街道沿いの町なみ 【大門町二口】

大門町二口は、庄川右岸の大門駅の南側約800mに位置する。町中を通る熊野街道は、北の北陸街道と南の中田街道を結ぶ副道で、昔から熊野新宮への参道として、また町の中心にある誓光寺の門前町として栄えてきた。町なみは緩やかに蛇行する街道に沿って、両側に家が建ち並ぶが、ほとんどの家が町家ではなく農家である。そのため、一般的な連続した町家とは違い、家と家との間がゆつたりと広い街村(がいそん)の形態をとっている。農家が町家に近い姿で並んだもので、ゆえに独特の景観を創出している町なみである。

切妻屋根で平入りの洗練された町家形式の家があるかと思えば、正面に土庇を付けたものや、入母屋屋根のものまで、様々な建物が混在して建ち並び、変化に富んだ景観である。さらに、家と家の間には樹木が植えられ、建物と道路の間にも小さな庭がつくられ、潤いのある町なみ空間を特徴づけている。





海運隆盛を誇った港町 【高岡市伏木】

伏木は小矢部川河口左岸に位置し、古くから高岡の外港として賑わった。伏木の町なみは、北前船の中継地として発展した海沿いの「伏木みなと町」と、港の後背地にあり門前町として発展した「勝興寺寺内町」の2つがある。伏木みなと町の中道通り西側は、切妻平入りの中2階建てで狭間格子を入れた伝統的な町なみであるが、中道通り東側と湊町は、大正から昭和初期に造られた洋風意匠の建築や銅板張りの建築などが混在する独特の景観を有している。

一方、勝興寺寺内町は、寺の門前から小矢部川の川縁までの旧参道に沿ってつくられている。町なみは間口3間から3間半が標準で、通りから土間とミセ、茶の間と中の間・仏間・座敷、背後に中庭を配した短冊形である。廻船業を営む商家も各町内に数人ずつ屋敷を構え、屋敷地は堀で囲み、座敷に面した庭も広くとつて土蔵などの付属屋も建てた。そのため一般的な家々と豪商の屋敷が混在する独特の町なみとなつた。



